

第18回文化庁メディア芸術祭関連イベント

テーマシンポジウム

想像力の共有地〈コモンズ〉

2015年2月15日(日) 会場：国立新美術館 [3階 講堂] ※要事前申込

文化庁メディア芸術祭受賞作品展の特別企画として、現代美術から大衆文化、インディペンデント作品から産業広告まで「同時代の文化形成」を考えるシンポジウムを今年も開催！今年度のテーマは「歴史」と「批評」。アーティストやクリエイターが創作を続け、世界と対峙するときに意識する自らの史観や、作品を社会にひらくときに向けられる批評について、美術家・社会学者・哲学者・批評家がその本質を語ります。現代美術やメディア芸術の知識を持たない方もぜひご来場ください。

第1部 13:00-14:30

「美術・歴史・日本—自作を語るための歴史とは」

出演 中ザワヒデキ（美術家）
大澤 真幸（社会学者／THINKING「0」主宰）
モデレーター 室井 尚（哲学者／横浜国立大学教授）



歴史とは何かー？ 美術とは何かー？ 日本とは何かー？ 現在とは何かー？
グローバル世界において自らを取り巻く歴史や文化にどのように向き合うべきか。

第2部 15:30-17:00

「メディウム（＝メディア）からはじまる新時代の〈批評〉」

出演 gnck（キャラ・画像・インターネット研究）
塚田 優（視覚文化評論家）
三輪 健太郎（マンガ研究者）
モデレーター 石岡 良治（批評家／表象文化論／ポピュラー文化研究）

※公式ウェブサイトでも申込受付中 <http://j-mediaarts.jp>

第18回文化庁メディア芸術祭関連イベント テーマシンポジウム「想像力の共有地〈コモンズ〉」

第1部 13:00-14:30 「美術・歴史・日本—自作を語るための歴史とは」

会場：国立新美術館 [3階 講堂] (東京都港区六本木7-22-2) ※要事前申込

作家自身の視点で現代美術史を執筆した中ザワヒデキ氏の近著『現代美術史日本篇 1945 - 2014』から、その執筆の動機や自身が主張する「循環史観」と、2010年以降の日本の現代美術シーンを紹介する。美術家として活動をしながら「現在の自分の視点で歴史をつくる」という姿勢で果敢に現代美術史の見取り図を描いた中ザワ氏の活動を参照し、グローバル世界において自らを取り巻く歴史や文化にどのように向き合っていくのか、現代社会・美術・宗教など幅広い視点から論じていく。

歴史とは何か—？ 美術とは何か—？ 日本とは何か—？ 現在とは何か—？ 中ザワ氏の著書をひとつの切り口として、文化や歴史に深い関心を持つ社会学者・大澤真幸氏から応答してもらうと共に、現代美術、メディア芸術、これからの日本文化について全員で討議を行う。

■ 出演

中ザワヒデキ NAKAZAWA Hideki

1963年新潟生まれ。千葉大学医学部在学中の1983年よりアーティスト活動開始（第一期：アクリル画）。卒業後眼科医となるも1990年、絵筆をコンピューターのマウスに持ち替えイラストレーターに転身（第二期：バカCG）。1997年、CGの画素を文字等の記号に置き換え純粋美術家に転身（第三期：方法絵画）。2006年、方法主義では禁じていた色彩を再び使用（第四期：本格絵画、新・方法、第四表現主義）。宣言「方法主義宣言」「新・方法主義宣言」。特許「三次元グラフィックス編集装置」「造形装置および方法」。著書「近代美術史テキスト」「西洋画人列伝」「現代美術史日本篇」。CD「中ザワヒデキ音楽作品集」。2014年には「現代美術史日本篇」の改訂版となる「現代美術史日本篇 1945-2014」（アートダイバー）を上梓。

大澤真幸 OSAWA Masachi

1958年、長野県松本市生まれ。東京大学大学院社会学研究科博士課程単位取得満期退学。社会学博士。千葉大学文学部助教授、京都大学大学院人間・環境学研究科教授を歴任。博士論文が『行為の代数学—スパンサー=ブラウンから社会システム論へ』（青土社）として出版されて以来、著書多数。2007年『ナショナリズムの由来』（講談社）で毎日出版文化賞受賞。橋爪大三郎との共著『ふしぎなキリスト教』（講談社現代新書）は2012年新書大賞第1位に選ばれた。現在、月刊個人思想誌『大澤真幸 THINKING「O」』刊行中、「群像」誌上で評論「〈世界史〉の哲学」を連載中。

■ モデレーター

室井尚 MUROI Hisashi

1955年生まれ。京都大学大学院文学研究科博士後期課程修了（美学美術史学）。『情報宇宙論』（岩波書店）、『哲学問題としてのテクノロジー』（講談社選書メチエ）など著書、翻訳書多数。劇作家唐十郎を横浜国立大学に招聘し、弟子たちを中心とした劇団唐ゼミ☆をプロデュース。2001年、椿昇と共に横浜トリエンナーレに《インセクト・ワールド》を発表。2005年、『巨大バッタの奇蹟』（アートン）を刊行。2009年以降、北仲スクール、横浜都市文化ラボなどの活動を通して大学からの文化発信を精力的に行っている。2014年にはやなぎみわ × 劇団唐ゼミ☆『パノラマ—唐ゼミ☆版』をはじめとする演劇・パフォーマンスの上演、アート作品の展示を含めたアートイベント「パノラマ・プロジェクト」をプロデュース。同年には、三輪真弘「59049年カウンター—2人の詠人、10人の桁人と音具を奏でる傍観者たちのための—」（サントリーホール）にて横浜都市文化ラボ桁人チーム（代表：室井尚）として参加。様々なアーティスト、若手作家とともに活動している。